

11月の 園便り

絵本
『ごきげんは
ライオン』



赤ばらさんのエピソードから…

28年 新潟青陵幼稚園 加藤 由美子

赤ばらのAちゃんがままごとをしていました。そこへ、男の子が2人、「なにつくってるの？入れて！」と言いました。Aちゃん「今ご飯中だから入ってきちゃダメ！」と答えました。数回「いれて」「だめ」と繰り返していましたが、男の子たちは「ぼくたち食べ物がないんだ」と言いました。Aちゃんは少し黙って考えてから「そうなの、ならあげるよ！」と中に入れてあげ、ご飯を作って食べさせてあげました。

男の子たちがご飯を食べ終わると、Aちゃんは「食べ物なら、あそこにいっぱいあるよ」とどんぐりやクルミがある場所を教えてあげました。すると男の子たちは「ありがとう」と言ってその場所へ走って行き、食べ物をもって、ままごとを始めました。

「ダメ」と言われた男の子たちは考えましたね、ただ「入れて」と言ってもダメなのだ、それならと「僕たち食べ物がないんだ」と困っている状況を訴えました。すると、その言葉が功を奏して中に入ってご飯を食べさせてもらうことができました。Aちゃんは「お腹がすいているなら可哀想」と思いやりをもって男の子たちにご飯を食べさせてあげました。想像の世界の素晴らしさ・・・ひもじい男の子たちは一軒の家の親切なAちゃんにご飯を食べさせてもらって・・・と昔話になりそうなやり取りがなされています。そしてご飯を食べ終わると、Aちゃんは出て行ってもらおうと、食べ物があるところを教えています。よく考えましたね～「食べたら帰って」とも言えますが、そういういい方はしていないのですね。争いになるような言葉ではなくて、男の子たちが自分たちで遊びを始めることができる言い方をしています。最初、男の子たちはAちゃんのおままごとに入れてもらいたかったのですが、でも、Aちゃんの思いやりのある対応と素敵な言葉で、気持ちよく自分たちでおままごとを始めようとしていました。

Aちゃんと男の子の姿から「想像の世界の豊かさ」と「言葉の大切さ」がわかります。

- 1、子どもたちは想像の世界と現実の世界を出たり入ったりできる自由な世界に住んでいます、想像の世界で生きることができるのは幼児期だけなのです。想像力は大人になっても必要な力…先を読んだクリエイティブな仕事ができることでしょう。
- 2、言葉の重要性、言葉の影響の大きさを思います。

温かい言葉は相手の気持ちを変える力がありますね。子どもたちには、人を傷つける言葉ではなく、温かい言葉を身に着けてほしいと思います、人との関係を作っていくときに、相手の気持ちを思いやる言葉を使えるようになって欲しいと願いながらいます。幼児期は言葉を身に着けていく大事な時期ですので、大人は言葉をよく考えた上で使いたいですね。

11月の予定

日	曜	給食	降園時間	行	事
1	火	○	2:00		
2	水	○	2:00		
3	木	/	/	文化の日	
4	金	○	2:00		
5	土	×	11:30	自由登園日	
6	日	/	/		
7	月	○	2:00		
8	火	○	2:00		
9	水	×	11:30	新入園児さんの保護者会がありますので降園時間が早くなります。	
10	木	○	2:00		
11	金	○	2:00		
12	土	/	/	第2土曜日	
13	日	/	/		
14	月	○	2:00		
15	火	○	2:00		
16	水	×	11:30	誕生会です、11月生まれさんの保護者の方、ご一緒にお祝いしましょう	
17	木	×	11:30	青陵幼稚園研修会を行います。 降園時間が早くなりますが、よろしくお願いいたします。	
18	金	○	2:00		
19	土	×	11:30	自由登園日	
20	日	/	/		
21	月	○	2:00		
22	火	○	2:00		
23	水	/	/	勤労感謝の日	
24	木	○	2:00		
25	金	○	2:00		
26	土	/	/	第4土曜日	
27	日	/	/		
28	月	○	2:00		
29	火	○	2:00		
30	水	○	2:00		